

入場無料
申込不要

世界の注目が集まる
2020年の夏
東京オリンピック。

メダル獲得に向けた競技力強化や
サイバーセキュリティ対策など、
開催に向けた様々な取り組みに
ついて科学的視点で紹介。

オリンピックを
科学します！

北陸4大学連携 「まちなかセミナー」 オリンピックを科学する ～TOKYO2020～

【進行】浅野 秀重
(金沢大学地域連携推進センター 教授)



【日時】平成30年 **11月3日(土・祝)** 13:00~16:30

【会場】金沢大学サテライト・プラザ(金沢市西町三番丁16番地)

◇問合せ先 金沢大学地域連携推進センター 〒920-1192 金沢市角間町 TEL 076-264-5272,5273 FAX 076-234-4045

E-mail kaihoh@adm.kanazawa-u.ac.jp ◇主催 富山大学 金沢大学 福井大学 北陸先端科学技術大学院大学

◇後援 富山県教育委員会 石川県教育委員会 福井県教育委員会

講演
1

「アスリートの養成・育成」

福島 洋樹 (富山大学人間発達科学部人間環境システム学科 准教授)

“早期専門型から後期専門型へ”。幼少・児童期における多様な運動あそびの経験は、動きのレパートリーの幅を広げ、その後の成長過程において“動きの洗練化”を容易にします。「できる！」有能感がタレント養成の大前提です。タレントの育成には、パフォーマンスを構成する技術や体力要素を科学的に分析し、理論知と実践知を照らし合わせながら、選手の強みの拡大と弱みの改善をバランスよく配置させたトレーニングが求められます。引退後のセカンドキャリアや東京五輪後に求められる生涯スポーツ振興を見据えた育成システムを考えます。

講演
2

「アスリートと栄養

～ベストパフォーマンス、コンディショニング、カラダ作りのためのアスリートレシピ～

山田 孝禎 (福井大学教育学部 准教授)

トレーニングすれば必ず効果が現れますが、行ったトレーニングの効果を最大限に、あるいは効率よく得るためには、何をどれくらいトレーニングしたかはもちろんのこと、バランスの取れた栄養価の高い食事を摂り、疲労やマイナートラウマの残らない十分な休息をとることもとても重要です。一方、不足分の栄養を補うためにサプリメントに頼るアスリートも少なくありませんが、ドーピングのリスクを高めてしまいます。このような、アスリートと栄養にまつわる諸問題について、その対処方法等も含めて考えます。

講演
3

「プレッシャーとパフォーマンス ～“心技体”を上手に制御するには?～」

村山 孝之 (金沢大学国際基幹教育院GS教育系 准教授)

“オリンピックには魔物がいる”。その正体は“強大なプレッシャー”にほかなりません。アスリートは技・体だけでなく、心(=心理的スキル)も科学的にトレーニングする必要があります。では、プレッシャーと上手に付き合うにはどうすれば良いのでしょうか?プレッシャーによるパフォーマンス崩壊のメカニズムを科学的に探ると、知覚、注意(視線)、情動反応、運動方略、そして運動学習・指導法がキーワードになることがわかってきました。運動心理学に関する最新のエビデンスを踏まえ、プレッシャーと上手に付き合う秘訣を探ります。

講演
4

「IoTが夏季五輪に貢献できること」

丹 康雄 (北陸先端科学技術大学院大学セキュリティ・ネットワーク領域 教授)

今年の夏の暑さにも象徴されるように、既に温帯と言うよりも熱帯の気候になりつつある我が国において夏季五輪を7月下旬から8月上旬に開催するということはそれなりのリスクを抱えることを意味します。また、五輪開催国に対するサイバー攻撃は回を重ねるごとに激しさを増しており、物理的なテロの恐れと合わせ、五輪そのものにとどまらないリスクをもたらす脅威となります。これに対し、近年の情報通信技術を象徴するIoT技術は様々な面での解決策を与える可能性があります。本講演ではいくつかの観点からこうした技術の例を紹介いたします。